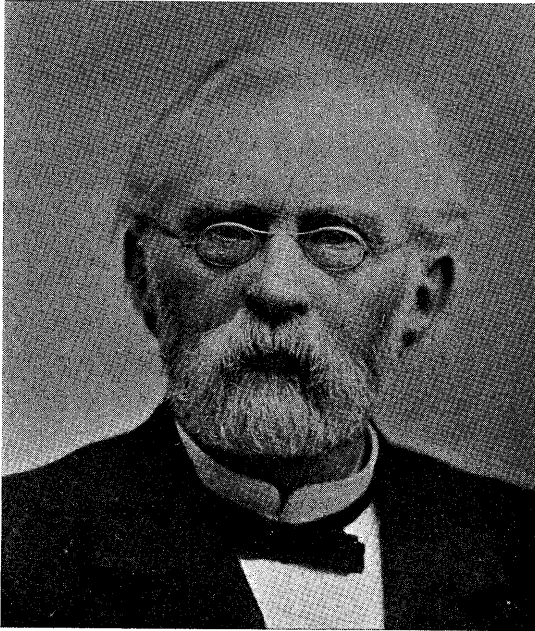


○ ヴァーミングの肖像 Johannes Eugenius Bülow Warming 1841-1924 は周知のようにデンマークの著名な植物学者で、現代植物生態学の父とみなされる人である。英訳



本 *Oecology of plants* (1909) やドイツ語版の *Warming's Lehrbuch der Ökologischen Pflanzen Geographie* (1918)

——もともになったのは、デンマーク語の *Plantesamfund* (1895)——に親しんだ人は多いと思う。私もその一人だが、姓の正しい発音も知らず、また三好学氏の植物学講義にある肖像以外見たこともないので、過日思いたって Knud Jessen 教授に尋ねてみたところ発音はヴァーミングの由で同時に秘蔵の古色蒼然たる写真を貸して頂いたので複写してお目にかける。(日本で通っているワルミングの呼び名

は三好学氏あたりかららしい。「欧米植物観察」(1914): 158 にもそう書いてある。ちなみに同じデンマークのラウンキエル(三好氏同著 p: 159—Raunkiaer) も、ラウンケアと発音するのが正しい由。(沼田 真)

A portrait of Eugenius Warming (1841-1924), the late professor of botany and director of the Botanic Garden at the University of Copenhagen—by the courtesy of Prof. Dr. Knud Jessen. (Makoto Numata)

□ 中島道郎, 林弥栄, 草下正夫, 小林義雄: 実用樹木要覧 朝倉書店 36 版 382 pp. (1961, 2 月) ¥680。口絵の図版は白黒の写真43葉からなり、本文は分類順に配列し、科属の説明は略し、種の記述に重点をおき、必要の場合に属中の種類を key で検索できるようにしてある。編集の仕方は種ごとに和名, 学名, 記相, 分布, 用途の順になっている。変種, 品種などは各種の項中にかきこまれている。(久内清孝)